

緑山バイオマス生産モデル事業の進捗状況

- 1 緑山バイオマス材生産モデル事業とは
- 2 令和2年度の実績
- 3 令和3年度の現状
- 4 令和2年度植栽のコウヨウザン成長量



緑山バイオマス材生産モデル事業の進捗状況

緑山バイオマス材生産モデル事業(事業イメージ)

第1回木質バイオマス利活用推進協議会
資料より

市有林において
早生樹を活用した
低コスト
15年サイクルによる
循環的なバイオマス生産

早生樹が15~20年で成長する
前提で、市有林(緑山:270ha)
を段階的に早生樹へ移行



15年間サイクルで伐採、再造林
を目標とする実証
目標: $270\text{ha} \div 15\text{年} = 18\text{ha/年}$



適宜、柔軟な最適手法の検討

- 例・植林密度を変化
- ・一部を用材エリア施業
 - ・他樹種の植林、混合育成
 - ・施肥の実施
 - ・私有林等、他地域への展開
 - ・森林機能の最大発揮の施業・
保育手法検討 ほか



市有林(緑山:270ha)



毎年段階的に早生樹へ移行

緑山バイオマス材生産モデル事業の進捗状況

◆令和2年度 6.64ha

コウヨウザン等植栽
9,900本

施業実績

作業道 6月～
皆伐 8月～
地拵 1月～
植栽 2月～



R3.10.5 北西斜面



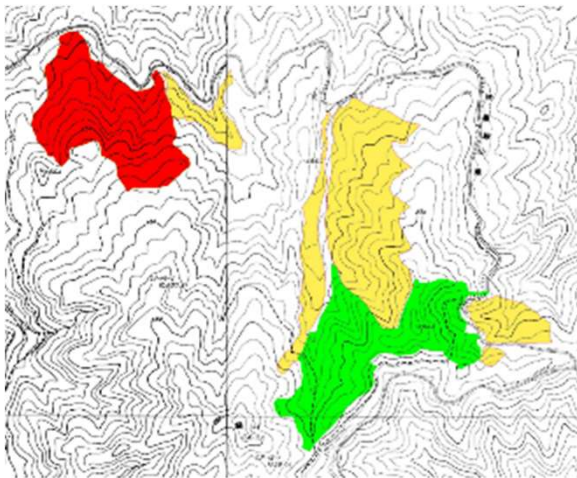
緑山バイオマス材生産モデル事業の進捗状況

◆令和3年度 12.00ha

コウヨウザン植栽
18,000本(予定)

施業実績

作業道 4月～
皆伐 5月～



R3.10.5 伐採作業中



緑山バイオマス材生産モデル事業の進捗状況

R2植栽コウヨウザンの現状



◆ 成長量

R3.2.10 69.2cm → R3.10.5 **92.0cm** 最高樹高

◆ 食害 0%

ウサギ等の食害は痕跡なし。

◆ 生存率 約 91%

調査区200㎡内 30/33本

◆ 倒伏 約 18%

調査区200㎡内 6/33本

倒れた後、
根元から萌芽あり。



👉影響要因 ◎強風 ◎背の高い苗 ◎皆伐後すぐに植栽